九大フィルハーモニー・オーケストラ

第 212 回定期演奏会

ブラームス：「大学祝典序曲」　作品 80
Brahms: Academic Festival Overture Op. 80

フランセ：クラリネット協奏曲
Françaix: Clarinet Concerto

シベリウス：交響曲第 2 番ニ長調　作品 43
Sibelius: Symphony No. 2 in D-Major Op. 43

指揮
鈴木優人　Suzuki Masato

クラリネット独奏
橋本杏奈　Hashimoto Anna

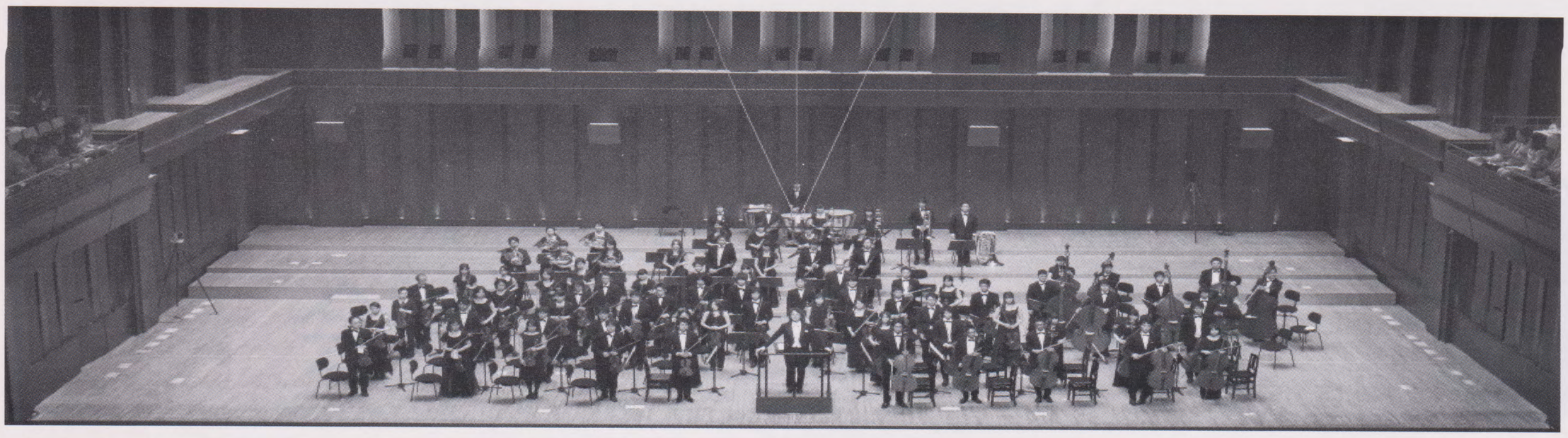
2024
6/8 Sat

開演 14:00（開場 13:00）
アクロス福岡シンフォニーホール

チケット
・チケットぴあ
　P コード　265-972
　https://t.pia.jp/
・アクロス福岡チケットセンター
　Tel 092-725-9112
・アクロス WEB チケット
　https://www.acrosticket.jp
映像はオンラインでも配信いたします

お問い合わせ
・広報（井上）tel 080-2738-0178
・渉外（阿部）tel 080-4275-6672
・E-mail qdaiphil@gmail.com
・公式 HP https://kyudaiphil.com

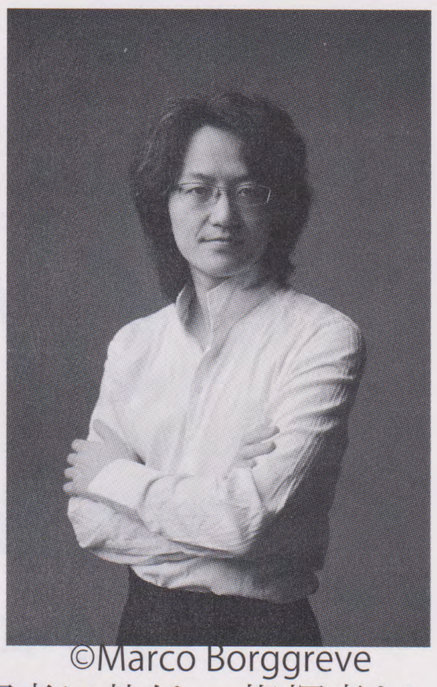
主催 九大フィルハーモニー・オーケストラ
共催 福岡県 福岡市 (公財) アクロス福岡
　　(公財) 福岡市文化芸術振興財団
後援 福岡市教育委員会 KBC RKB 毎日放送
　　九大フィルハーモニー会



九大フィルハーモニー・オーケストラ　kyudai Philharmonic Orchestra

九大フィルハーモニー・オーケストラは、九州大学と福岡市近郊の大学の学生で構成される、日本でも有数の永い歴史と伝統を持つアマチュアオーケストラである。現在、70名程の現役部員が所属し、年2回開催される定期演奏会を目標に、精力的に活動している。1909年に九州大学の前身である福岡医科大学の榊保三郎氏によって創立され、以降、石丸寛氏や荒谷俊治氏、堤俊作氏を指揮に迎え、発展を遂げてきた。1924年には皇太子時代の昭和天皇ご成婚を祝す「摂政宮殿下御成婚奉祝音楽会」にてベートーヴェン／交響曲第9番「合唱」第4楽章を演奏。一説に日本初演と言われている。さらにはメンデルスゾーン／交響曲第4番「イタリア」やハイドン（1. モーツァルト）/ 交響曲「玩具」などの日本初演を果たすなど、明治から大正時代にかけての日本のオーケストラを牽引してきた。2009年には九州大学に先立って創立100周年を迎えるとともに、永年にわたる音楽文化の向上や地域文化の振興に大きな役割を果たしていることにより、福岡市民文化功労賞を受賞。2014年には鈴木優人氏を九大フィル初代ミュージックアドバイザーに迎え、さらなる活動の充実を図っている。2018年には200回を数える定期演奏会を開催し、同年、東京のサントリーホールにて特別記念演奏会を開催した。定期演奏会の他にも、九州大学伊都キャンパス内の日本ジョナサン・KS・チョイ文化館での毎月のクラシックセッション（アンサンブル演奏）の開催や九大祭での演奏など地域に根差した文化活動を展開。官公庁や企業、学会からの依頼による出張演奏なども行っており、福岡県内の様々な場所において幅広い音楽活動を行っている。

指揮者プロフィール
鈴木優人　Suzuki Masato



©Marco Borggreve

東京藝術大学卒業及び同大学院修了。オランダ・ハーグ王立音楽院修了。令和2年度（第71回）芸術選奨文部科学大臣新人賞、第18回齋藤秀雄メモリアル基金賞、第18回ホテルオークラ音楽賞、第29回（2021年度）渡邉曉雄音楽基金音楽賞受賞。バッハ・コレギウム・ジャパン（BCJ）首席指揮者、読売日本交響楽団指揮者／クリエイティヴ・パートナー、アンサンブル・ジェネシス音楽監督。2023年4月より関西フィルハーモニー管弦楽団首席客演指揮者に就任。指揮者としてNHK交響楽団、読売日本交響楽団等と共演するほか、22年4月にはドイツ・ハンブルク交響楽団に客演。鈴木優人プロデュース・BCJオペラシリーズにおけるモンテヴェルディ：歌劇《ポッペアの戴冠》（2017）、ヘンデル：歌劇《リナルド》（2020/第19回佐川吉男音楽賞受賞）、歌劇《ジュリオ・チェーザレ》（2023）では、バロック・オペラの新機軸を打ち出した。2022年5月のグルック：歌劇《オルフェオとエウリディーチェ》（勅使川原三郎新演出）で新国立劇場に指揮者として初登場。24年2月にはORCHARD PRODUCE 2024にて鈴木優人＆バッハ・コレギウム・ジャパンx千住博　モーツァルト《魔笛》を上演。モーツァルト・オペラの上演に新風を巻き起こした。NHK-FM「古楽の楽しみ」にレギュラー出演するほか、テレビ朝日系列「題名のない音楽会」などメディア出演も多い。録音はBCJとのJ. S. バッハのチェンバロ協奏曲集（BIS）、タメスティとのデュオ（Harmonia Mundi）など多数。調布国際音楽祭エグゼクティブ・プロデューサー。作曲、編曲はもとより、バッハの消失楽章の復元も多数手がける。ブルーノート東京にも定期的に出演するなど、その活動に垣根はなく、各方面から大きな期待が寄せられている。九州大学客員教授。
Twitter / @eugenesuzuki
Facebook & Instagram / masatosuzukimusic

ソリストプロフィール
橋本杏奈　Hashimoto Anna

幼少より英国で育ち、王立音楽院にてマイケル・コリンズ、アンドリュー・マリナー、パトリック・メッシーナに師事。カルリーノ国際クラリネットコンクール（イタリア）最高位、ゲント＝コルトレイク国際クラリネットコンクール（ベルギー）優勝。日本と英国に於いても数々の賞を受賞。コンチェルトデビュー は15歳でイギリス室内管弦楽団との協演。以来数多くのオーケストラより ソリストとして招かれ、アシュケナージ、ブラビンズ、チョン・ミョンフンを始め、名だたる指揮者達との共演を重ねる。演奏の舞台はヨーロッパ諸国、アメリカ、メキシコ、ヨルダンに及ぶ。バッキンガム宮殿に於ける 故エリザベス女王陛下主催の レセプションに招かれる他、チャールズ前皇太子（現在の国王）ご列席のコンサートにて コンチェルトを演奏するなど、王室からの激励を受ける。日本に於いては2005年井上道義指揮によるドハティー作曲クラリネットコンチェルト「ブルックリンブリッジ」の初演以来、各地主要会場でリサイタルや室内楽 を行っている。NHK−BS、NHK−FM、Tokyo−FM、英国BBC放送にも 頻繁に出演している。これまで に9枚の CD をリリース。現在王立バーミンガム音楽院クラリネット講師。英国各地の講習会にてクラス を持ち、ナショナルユースオーケストラのコーチ 及び王立音楽大学ジュニア部の指導員。アテア木管五重奏団メンバー。主席奏者としても多くの主要楽団より客員として招かれている。

九大フィル Since 1909